

## 第3回イノベーション委員会

日時: 3月13日(火)

場所: 名古屋栄ビル

参加者: 委員長の竹中副会長をはじめ42名

委員会に先立ち、九州大学大学院経済学研究院教授の高田仁氏を講師に迎え、「既存企業からのイノベーション創出 ～直面する課題と対応の方向性～」と題し、ご講演いただいた(本誌6月号に講演要旨を掲載予定)。



高田教授による講演の様子

委員会では、竹中副会長の挨拶に続き、事務局より報告書「中部圏のイノベーション活性化のために(案)」、「中部圏のイノベーションを触発し続けるプログラム(案)」、今後の委員会活動について説明し、意見交換を行った。

委員からは、「これからは、ものづくりだけでなくサービスも考えることが重要であり、スピード感を持って進めなければならぬ」「この共創プログラムの中から、新しいビジネスモデルが生まれてくることを期待している」「このエリアに産学官連携の拠点のようなものがあると良いと感じており、今後、連携をより強くしていく必要がある」など、多くの意見が出された。



NTTコミュニケーションズ(株)の  
工藤理事・東海支店長

今後は、提案したプログラム(案)を確実に実行し、次回の委員会においてその活動や産学官連携についての報告を行う予定である。

(イノベーション推進部 本田 宗央)

## 第2回企業防災委員会

日時: 3月13日(火)

場所: 名古屋栄ビル

参加者: 委員長の小川副会長・共同委員長の今井理事をはじめ41名  
(講演会参加者は約220名)

委員会に先立ち、(株)ジェイテクト総務部防災推進室長の岩場正氏を講師に迎え、「大規模地震発生を想定した実践的な『職場減災』・『個人・家庭減災』について」と題し、「個人・家庭減災」を基本においた実践的BCPの構築・展開に向けた取り組みについて、ご講演いただいた。(講演会は全会員を対象に開催。本誌6月号に講演要旨を掲載予定)。



小川委員長による挨拶の様子

委員会では、小川委員長の挨拶に続き、事務局より新たに組成した専門委員会をはじめとする2017年度の活動実績、2018年度の活動計画、2018年2月に公表した「企業の地震対策に関するアンケート」調査結果の概要等について説明を行った。その後、前半の講演内容も踏まえて意見交換を行った。

委員からは、「BCPの文書があっても、社員が



委員からの意見に応える  
(株)ジェイテクトの岩場防災推進室長

その内容を理解し、行動できなければ意味がない」「本部からの指示待ちではなく、現場で判断できる人材を育成しておくことが大切」「BCPの実効性を確保するには、継続的な訓練が重要」

「BCPは作成することが目的ではないので、実質的に役立つ活動ができると良い」など、多くの意見が出された。

(社会基盤部 小池 貴士)

### 第37回Next30産学フォーラム

日 時: 3月20日(火)

場 所: 見学会/グリーンサイクル(株)

講演会・懇親会/名古屋栄ビル

参加者: 28名

今回は、廃家電製品のリサイクル事業の見学会と講演会・懇親会をあわせて実施した。



エアコンの手解体の様子

見学会は、グリーンサイクル(株)のご厚意により実現したもので、工場内におけるテレビ、エアコン、洗濯機など廃家電製品の解体ラインを視察した。参加者からは「人海戦術で廃家電製品を解体していく様子を視察でき、かつ解体された部品の再利用方法が分かり、貴重な機会となった」という声が相次ぎ、廃家電製品から鉄などの資源を取りだし、新しい製品の原材料として供給される取り組みについて理解を深めた。



プラスチックの比重差を利用した分別方法の説明を受ける参加者たち

講演会では、岐阜薬科大学生命薬学大講座生化学研究室講師の遠藤智史氏による講演、金城学院大学生活環境学部環境デザイン学科講師の

伊藤海織氏による講演およびワークショップを行った。

遠藤氏は、「くすりのつくり方 〜デザインから上市まで〜」をテーマに、痛風などを事例に薬による治療には、新陳代謝により影響を受けるタンパク質の働きや立体構造を理解したうえで、酵素と基質を結びつけることを防ぐ阻害剤を開発することが重要であると説明。現在、進められている様々な治療薬開発の事例を紹介しつつ、自身も創薬研究・開発に貢献していきたいと述べた。

伊藤氏は、「服に縫い目があるのは実用のため?オシャレのため?」をテーマに、衣服は、人体の形に合わせて、布を裁断して縫製していくうえで、3タイプ(筒・球・馬の鞍)の立体を考慮することが重要であると説明。その後、参加者は、服の原型となる型紙をハサミやテープを使って衣服の形につくり上げていくという課題に試行錯誤しながら夢中で取り組んだ。最後に伊藤氏からは、幼児や子ども、成人(男性・女性)によって服の原型は違っており、今後、衣服を購入する際には、縫い目やふくらみ等にも注目してほしいと述べた。

その後の懇親会では、参加者が講師を囲み、それぞれの研究について意見を交わすなど、一層の親睦を図った。次回のフォーラムは、5月末に開催する予定である。

(イノベーション推進部 水田 晴久)

### 観光委員会

日 時: 3月22日(木)

場 所: 名古屋栄ビル

参加者: 委員長の安藤副会長をはじめ48名

安藤委員長は冒頭、「インバウンドをはじめ観光産業はわが国の基幹産業であることは広く認知されてきたが、今後はより幅広い業種の参画によって裾野を広げていく必要がある。そのために、本委員会では、観光動向に関する様々なテーマについて、情報共有を図っていきたい」と挨拶を述べた。

はじめに、国土交通省中部運輸局観光部長の澤田孝秋氏から、観光政策の現状や訪日外国人旅行者の受入環境整備の取り組み事例の他、昇龍道エリアのインバウンド動向について説明が行われた。

続いて、2017年5月に発足した(一社)中央日本総合観光機構常務理事の高山廣基氏とハーヴェイ・アシュリー氏から、同機構の理念や役割、欧州旅行博への出展をはじめとするこれまでの活動状況などについて説明が行われた。

その後、事務局より2018年度委員会活動計画の説明を行い、意見交換を実施した。委員からは、「地域の成功事例を横展開していくことが必要」「中部圏のゲートウェイである名古屋の世界的な知名度を上げていかなければならない」「旅行者の安全・安心の確保は受入環境整備の中でも極めて重要で、仕組みをつくっていく必要がある」など、さまざまな観点から意見が出された。

今後は、中部圏における観光地域づくりの取り組み事例紹介として、各回ゲストスピーカーによる講演を行う他、ラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピック等の世界的スポーツイベントによるインバウンドへの期待やニューツーリズムなど最新の観光動向について共有を図っていく。



副委員長を務める  
(株)JTB中部の松本社長

(企画部 高井 勇輔)

### 広域連携・地域づくり委員会

日時: 4月5日(木)

場所: 名古屋栄ビル

参加者: 委員長の山名副会長をはじめ32名

本委員会は、「将来を見据えた中部圏のビジョン」の策定に向けた活動を進めている。

今回は、このビジョンの骨子案について審議を

行った。骨子案は、中部圏と名古屋圏のSWOT分析(強み・弱み・機会・脅威の要因分析)や有識者ヒアリング等を行うとともに、人口減少、国土強靱化、環境対応、技術革新等、2050年頃の社会を展望したうえで、中部圏が目指すべき将来像やその実現に向けた取り組みの方向性を取りまとめたものである。広域のビジョンとして、生態系の重要性も踏まえ、都市の発展のみならず自然環境の保全にも着目し、大きく4つの圏域(名古屋圏、東海環状帯、地域中核産業圏、自然共生圏)を提示した。

委員からは、東京・関西等の他の圏域と中部圏の役割の明確化や連携、リニア中央新幹線開業による時短を最大限に生かすためのアクセスの向上(リニア駅やセントレアと各地のアクセス)の必要性等について意見が出された。また、ビジョンの策定に向けて、「産業集積地である中部圏の強みの堅持」「イノベーションの推進」「クリエイティブクラスをはじめとする高度な人材の確保」「若者を惹きつける感動空間の創出」等を実現する具体的なプロジェクトの検討が必要であるとの意見が出される等、多くの委員から発言があり、活発な審議がなされた。

今後、専門委員会の活動等を通じて、具体的なプロジェクトのアイデアを盛り込むとともに、多様な世代の声を反映する等、ビジョンの中間案の取りまとめを行い、次回委員会(6月開催予定)にて審議を行う予定である。今秋のビジョン公表に向け、より一層委員会の活動を活発化させていく。



野村不動産(株)名古屋支店の  
水野執行役員支店長



名古屋大学の木村理事・副総長

(企画部 加治 貴史)